



「気づかないうちに不健全にならないように！」

小岩裕一

「良い麦」と「毒麦」の例話（マタイ13：24－27）では、「良い麦」が蒔かれた時に、敵である悪魔が「毒麦」を蒔いて立ち去ります。主イエスは「良い麦」も「毒麦」も成長し続け、世の終わりの主の再臨の時、毒麦は焼かれて裁かれると言われました。

「人々が眠っている間に」（25節）とあるように、気づかないうちに「毒麦」が教会に入り込んでくるのです。だから、私たちは、無知、無防備ではなく、気をつけなければならないのです。

1、「毒麦」とは何か

(1)**異端集団**：異端は三位一体、聖書信仰を否定します。旧統一協会、エホバの証人、モルモン教、そして、摂理、新天地、全能神などです。近年の異端集団は、指導者、教理、信者、所在地なども不明で、自分たちの正体を隠していますので、気づかれないのです。

(2)**不健全な集団**：基本教理はキリスト教と類似していますが、教理の一部を言わないか、一部だけを極端に強調します。教理のバランスが崩れ、聖書の真理が歪んでいます。

人間関係においては、入信段階では、大歓迎され愛の溢れる優しい人たちと感じますが、信者になり、年数が経過すると、指導者から強制される奉仕、活動が増えてきます。精神的にも肉体的にも疲労困憊し、喜びと感謝がなく、成果主義的、義務的な信仰生活になってしまいます。

2、近年の不健全な集団の特色とは、

(1)**新使徒運動**：エペソ4：11を根拠に、旧約時代の預言者、初代教会の使徒のような「特別な霊的な指導者」が、現代にも存在すると主張します。その特別な指導者の説教を聞き、その宣教活動に参加することがリバイバルにつながると主張します。しかし、その指導者の説教には聖書からの逸脱が見られます。この運動は、福音派からもペンテコステ派からも警戒されています。

参考文献：坂本兵部『「新使徒運動」の危険なパン種』いのちのことば社

(2)**霊的独善と既成教会批判**：「霊的独善」とは、自分たちだけが神に特別選ばれ、自分たちだけが特別な聖霊の油注ぎを受け、多くの信者がいると主張します。自分たちだけが特別な真理を知っているという霊的エリート意識があり、謙遜さに欠け、既成キリスト教会を見下しています。

急速な信者の拡大の裏には、過度な権威主義、ハラスメント問題が隠されていることがあります。「既成教会批判」とは、既成教会は、聖書に忠実ではなく、信仰が生ぬるく、神の祝福がないと批判します。既成教会は、自分たちに嫉妬して、誹謗・中傷していると言います。しかし、健全な教会は、他教会や他教団の徳を高め、主にある交わりや宣教協力を大切にします。

(3)**セカンド・チャンス説**：Iペテロ3：18－19を根拠に、地上の生涯でキリストの救いに入らなかった人が、「死後」キリストの救いに与るとする説です。この聖句は多様な解釈が可能で、その一つであるセカンド・チャンス説だけを正しいとするには無理があります。聖書全体の真理は、地上の生涯で、主イエス・キリストを信じて救われることです。私たちの宣教は、死後のことは神に委ね、今、この地上で、全ての人に福音を伝えることです。

参考文献：ウィリアム・ウッド『「セカンドチャンス」はほんとうにあるのか』いのちのことば社

3、「気がつかないうちに、密かに入り込む」

「彼らは、滅びをもたらす異端をひそかに持ち込む」（IIペテロ2・1）と警告しています。異端集団、不健全な集団の情報は、YouTubeやSNSで拡散されています。注意、警戒を怠らないように。

※ 異端・カルト相談室ニュース『異端・カルト団体の手口』を添付します。



「気づかないうちに ハラスメント！」

小岩喜代美

2025年10月に、職場で同僚の女性を「〇〇ちゃん」と呼び、さらに「かわいい」「体型、良いよね」といった発言をしていた男性に対し、東京地裁がセクハラと判断して慰謝料22万円の支払いを命じる判決を下しました。このニュースを聞いて、「そんなことで？」と驚いた人が多かったようです。注目すべきことは、発言内容よりも、その発言によって女性が精神的苦痛を受けたことです。私たちも悪気なく発した言葉が、相手を傷つけているかもしれないのです。

このように、ハラスメントの中には、行為者が気づいていない無自覚なハラスメントも存在します。その背景には、次のことが考えられます。

- ① 生活環境の違いや世代間ギャップ：親しみを表すつもりが相手に不快感を与えたり、指導のつもりがパワーハラと受け取られていた、という場合があります。
- ② 「無意識バイアス」：これは、自分の経験や価値観、見聞きした情報から偏った見方で考えることを指します。たとえば、「〇〇は女性の仕事だ」という考えもその一つです。そうした考えから仕事を押しつけるのは、ジェンダーハラスメントに該当します。

固定観念による差別意識からくるハラスメントに、マリハラ（結婚に関する価値観の押し付けや、未婚・既婚を理由にした差別的な言動）、レイハラ（人種・民族・国籍などを理由に、不当な差別、暴言、侮辱、嫌がらせを行う行為）などがあります。「〇〇だから」というレッテル貼りをして、自分の価値観を押しつける不用意な言葉で人を傷つけていないでしょうか？ハラスメントを防止するには、それぞれの立場や多様性を尊重することが大切です。

また、私的なことに過度に立ち入ったり、プライベートな情報を本人の了承を得ずに他の人に伝えたりすることで人を傷つけている場合があります。厚生労働省が示す「職場におけるパワーハラスメント関係指針」では、パワーハラスメントにおける6類型の1つとして「個の侵害」が挙げられています。過去の裁判では、他人に知られたくない病気休暇を取得した事実を公表されたことによって、精神的苦痛を受けたと認められた判例があります。教会でも気をつけなければならないのは、「祈りの課題」で個人的な事柄が話題になることです。本人が話される場合は問題ありませんが、たまたま知り得た個人情報、それも、人に知られたくない内容を話してしまうと、プライバシーの侵害になります。ポイントは「本人の了承を得ているかどうか」です。本人からの情報でも、祈り会の場だけにとどめておきたかったのに拡散したとか、センシティブな事柄について詮索されて傷ついた話を聞いたことがあります。

健全な教会を建て上げるために、お互いに、意識せずにとっている自分の言動を振り返り、ハラスメントに気づくことが重要です。「何事も利己的な思いや虚栄からするのではなく、へりくだって、互いに人を自分よりすぐれた者と思いなさい。それぞれ、自分のことだけでなく、ほかの人のことも顧みなさい」（ピリピ2：3、4）。ハラスメントが生まれやすい教会文化にならないように意識し、ハラスメントに気づいたときには、傍観者にならず、適切な行動をとるようにしていきましょう。

ハラスメント相談窓口

小岩裕一（西宮聖愛教会 090-9697-1338）、小岩喜代美（西宮聖愛教会 090-8526-1338）
木村勝志（知多教会 080-9281-1498）

☆異端カルト、ハラスメント問題について、お気軽にご相談ください。

